

留学先大学： University of Washington
 留学先での所属学部・研究科： College of science and arts
 留学先での在籍身分： exchange student
 留学期間： 2013 年 9 月～ 2014 年 6 月
 神戸大学での所属学部・研究科： 文学部人文学科
 学年（出発時）： 4
 本報告書記入日： 2014 年 8 月 28 日

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習, 復習, テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	Comparative Literature 250 - Literature and Culture	Russel Black	3.6	5	40	小説を2冊読んだ。毎回先生がトピックを与えてそれについて400語で程度で書かされた。最後は1250から1500語のペーパーで成績が評価された。
2	English 213 - Modern and Post Modern Literature	Gillis Bridges Kimberlee	3.6	5	20	小説4冊と解説書1冊を読んだ。毎回かなりの量を読んでこななければならなかった。学生の積極的な発言が常に求められた。800から1000語のエッセイ2つと作品の中からの抜出について注釈を付ける課題2つと最後のペーパーで成績が評価された。
3	Swedish101 - Elementary Swedish	Roos Liina-ly	4.1	5	12	スウェーデン語の初歩で、会話で使う簡単なフレーズや日常的な単語を勉強した。毎週金曜日に小テストがあり、最後の週のテストと普段の発言の頻度などで成績が評価された。
4	American Ethnic Studies 213 - Comparative American Ethnic Literature	Stephen Sumida	4.5	5	80	小説を5冊読んだ。毎週金曜日はクイズと言って小テストや自分の考えを紙に書いて提出したりした。1250 - 1500語のエッセイが2つあった。
5	English 310 - Bible as Literature	John W. Griffith	4.1	5	30	毎日決まったページ数を読んで、先生が前もって与える質問の答えを用意していった。クラスで発言、あるいは紙に書いて提出した。先生が疑問を提起してそれを元に学生が自分の疑問や考えを言う形で授業が進んだ。
6	Music 331 - History of Jazz	Steven Korn	4.1	5	250	学生はジャズの歴史をまとめた分厚い教科書を読み、クラスでは先生がそれから重要なところをまとめたスライドと実際の音源やビデオを使って授業を進めていた。中間テストが2回とジャズコンサートのレポートと最後のテストで成績が評価された。とても人気のある授業で、履修登録も前もって狙いを定めておかないとすぐに埋まってしまう。
7	English 346 - Studies of Short Fiction	George E. Laurie	3.6	5	30	短編小説集からの短編を15話くらい読んだ。時々話の内容について客観形式の小テストがあった。1000から1250語のエッセイ2つで成績が評価された。授業では学生の積極的な発言がいつも求められた。
8	Music 162 - American Pop Song	Steven Korn	4.1	5	300	アメリカのポピュラー音楽の歴史をまとめた分厚い教科書を使った。先生がスライドと音源とビデオを使って大事なところを説明していく形で授業が進んだ。非常に人気のある授業で、登録するのに空きが出るのをしばらく待たなければならなかった。
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

10人以下の少人数の授業はたいがい500番台以上の院生向けの授業で受講するにはハードルが高かった。神戸大学で受けた同じくらいのサイズの授業と比べて発言が重要視されているのは事実だが、成績評価はエッセイやペーパーがほとんどだった。発言を求められるのは先生が学生の意見を知りたいからであって、ちゃんと英語で書いて意見を伝えられるのであればあまり発言できないからと言って成績を低くされることはないようだった。英語が流暢な留学生やネイティブスピーカーの学生は頻繁に発言していたが、必ずしも中身があるわけではないようだった。多くの人は割り当てられた課題をこなしてから授業に参加していた。授業の出席率は神戸大学と比べて高いようだった。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

- ・航空運賃： 120000円
 - ・住居費：（月額） 80000円 ×（留学月数） 9 ヶ月 = 720000円
 - ・食費：（月額） 20000円 ×（留学月数） 9 ヶ月 = 180000円
 - ・保険料： 120000円
 - ・その他： 300000円
- 合計： 1440000円 （留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。(800字～)

ワシントン大学への交換留学はとても満足のいくものでした。

まず、学ぶ環境が神戸大学より整っているように感じました。授業の分野やレベル別の選択肢の広さ、多様なバックグラウンドを持つ学生、快適に学習できる空間を備えたいくつもの図書館や校舎など、規模の大きい公立大学ならではの充実した学習環境がワシントン大学の魅力の一つだと思います。特に学生の様々な要望に対するサポートやサービスの充実ぶりには驚かされました。具体的には、Odegaard図書館での個別のチューターによるライティングの添削指導、

Mary Gates

HallでのいくつものCareer Fair、個別のチューターによるキャリア相談、Schmittzホールでの種々の悩みについて気軽に相談できるカウンセリング、さらに学生一人ひとりに与えられるアカウントであるMy

UWでは図書館やその他の学習スペースの空き状況をリアルタイムで教えてくれるソフトが使えたりと、とにかく便利なサービスがたくさんありました。また、キャンパスの美しさは多くのUWの学生が誇りに思っており、実際ニュースサイトなどで美しいキャンパスランキングに上位によく上がるそうです。UWの弱点としては、アメリカの公立大学にはありがちなことらしいですが、先生の数に対して学生の数が多すぎることだそうです。学部生がとる授業はほとんどが10人~40人の中規模から100人以上のような大規模のものになると思います。

交換留学生は語学コースの受講生などとは違って現地の正規の学生と同じように授業が受けられるのが交換留学のいいところです。僕の場合は行く前はそもそも英語の講義が聞き取れるのか、ついていけるのかということに不安しかありませんでしたが、わからないところがあれば聞きに行ったり、英語に不安があるなどの懸念を直接先生に伝えればいつでも親身に聞いてくれる先生ばかりだと気づき、必要以上の気負いはなくなりました。あくまで現地の学生と対等に扱われており、また見た目から判断して留学生だから気を使ってあげようなどと先生の側から考慮してもらえないことはずなので自分から自己アピールすることが大事だと感じました。ディスカッションにおいても発言しなければそもそも存在に気付いてすらもらえないということを実感しました。しかし誰にでも主張できる権利が与えられており、時に先生と違う意見を誰もかはっきりいうことができるという点にアメリカが誇る平等と自由を実感しました。

シアトルという街にもいろんな魅力を感じました。行く前に心配していたような治安の悪さはほとんど感じられなかった上に、バスや電車や通りですれちがうときなど、人々にはお互いに譲り合い尊重しあうようなマナーが浸透しており、良い意味で当初の期待を裏切られました。アジア人であるからといって店やレストランでぶっきらぼうな対応をされたと感じることも全くありませんでした。また、チャイナタウンでは中国の季節に合わせた祭りやアジア人コミュニティーの文化と歴史を記念するイベントなどがよく行われているなど、活発なアジア系コミュニティーの存在を実感することが多くありました。唯一の難点といえば冬が近づくにつれて短くなっていく日照時間と何日も続く重い曇天ですが、その分春と夏の快適さと街の美しさは格別なものがあります。

シアトルは確かに素晴らしいところですが、アメリカはとにかく広いので人々の気質や英語の違い、その多様性を感じるためにも近隣の州や街に旅行に行くことはいい経験となりました。カナダの国境が近いので休暇中に小旅行をする人は多いようです。

振り返ってみて、交換留学は神戸大学にいたるだけでは決して経験できないことを経験する機会を与えてくれる素晴らしいプログラムだと思います。